

平成28年 5 月27日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎  
 (コード番号：4572)  
 問合せ先 経営管理本部長 吉野 公一郎  
 (TEL：078-302-7075)

プロナイ・セラピューティクス社とのライセンス契約締結に関するお知らせ

当社は、平成28年5月26日開催の取締役会において、プロナイ・セラピューティクス社（カナダ ブリティッシュコロンビア州、英名：ProNAi Therapeutics, Inc.、株式市場：NASDAQ-GM、以下「ProNAi社」という）との間で、当社が開発したCDC7を標的とする抗がん剤の医薬品候補化合物に関するライセンス契約（以下「本契約」という）の締結を決議しましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 本契約締結の概要

当社は、当社が開発したCDC7を標的とする医薬品候補化合物（化合物番号：AS-141）に関するライセンス契約をProNAi社と締結しました。本AS-141は、CDC7を阻害する低分子キナーゼ阻害薬として、様々ながん種に対して当社が実施した前臨床試験において抗腫瘍効果を示す化合物であり、今般、新規分子標的治療を推進しているオンコロジーカンパニーであるProNAi社に対し、本AS-141の開発・商業化に関する全世界を対象としたライセンスを供与することといたしました。

その対価として、ProNAi社は、契約一時金として、90万ドル（約1億円）を当社に支払うほか、開発状況、承認、上市などの進捗に応じて最大270百万ドル（約300億円）の目標達成報奨金（マイルストーン）を支払うこととなります。またProNAi社は、上市後の売上高に応じた一桁の段階的ロイヤリティを支払います。

2. 相手先の概要

① 名 称	ProNAi Therapeutics, Inc.
② 所 在 地	885 West Georgia Street Suite 2150 Vancouver, British Columbia, Canada
③ 代表者の役職・氏名	Nick Glover, PhD, President and Chief Executive Officer
④ 事 業 内 容	新規抗がん剤の開発
⑤ 資本金(Common Stock)	679MUS\$
⑥ 設 立 年	2003年
⑦ 大株主及び持株比率	Fidelity Management 14.6% Deerfield Management 9.9% Vivo Capital 8.1% Frazier Healthcare 7.2%

⑧ 当事会社間の関係			
資 本 関 係	該当事項はありません。		
人 的 関 係	該当事項はありません。		
取 引 関 係	該当事項はありません。		
関連当事者への該当状況	該当事項はありません。		
⑨ 最近3年間の経営成績及び財政状態（単位：千US\$。特記しているものを除く）			
決算期	Dec 31, 2015	Dec 31, 2014	Dec 31, 2013
純資産 (Total Shareholders' equity)	145,371	-107,815	-34,690
総資産 (Total Assets)	152,768	40,565	2,460
1株当たり純資産	—	—	—
売上高 (Sales to customers)	0	0	0
営業利益 (Loss from operations)	-35,828	-22,578	-4,005
経常利益	—	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益 (Net loss)	-453,184	-73,722	-12,545
潜在株式調整後1株当たり当期純損失 (Net loss per share attributable to common stockholders, basic and diluted)	-31.47\$	-69.08\$	-19.18\$
1株当たり配当金 (Cash dividends per share)	0	0	0

(注) 1株当たり純資産および経常利益は、ProNAi社において公表していないため、記載をしております。

### 3. 本契約の日程

- (1) 当社取締役会決議 平成28年5月26日
- (2) 契約締結日 平成28年5月26日

### 4. 今後の見通し

本契約の締結は、当社グループの創薬事業における当連結会計年度およびその後の決算期の業績に寄与するものと考えております。現在、本契約締結による当連結会計年度業績に与える影響は精査中であり、判明しましたら、速やかにお知らせしてまいります。

以 上

### (注) CDC7について

セリンスレオニンキナーゼの1種であるCDC7 (cell division cycle 7) は、がん細胞の増殖に重要な2つの機能、DNA複製や損傷応答の制御に重要な役割を担っています。がんの新しい治療法の発見につながったDNA修復機構や損傷応答に関する研究は、2015年度のノーベル化学賞およびアルバート・ラスカー基礎医学研究賞を受賞しており、注目を集めています。CDC7の発現量や活性は、沢山の血液がんや固形がんでは予後不良や生存率と相関しており、CDC7阻害剤はp53非依存的にアポトーシスを誘導してがん細胞を死に至らすため、様々な動物モデルにおいて抗腫瘍効果を示しています。